

ほっとメール

皆さんからのご意見やご要望と、その回答を紹介します。

お願いがあります。

先日、「やしおの湯」を利用しました。泉質が良いことから気持ち良く入浴できるので、遠地ですが度々利用しています。

しかし、今回は刺青を入れた人達が集団入浴していたため、不愉快な気分になりました。

大抵の公共の温泉は、刺青を入れた人の入場を制限していますので、「やしおの湯」においても、入場制限をお願いします。

市長がお答えします。

日ごろより、温泉保養センター「やしおの湯」を利用いただきありがとうございます。

ご指摘の刺青を入れている方の入場制限につきましては、「やしおの湯」および、すべての市営の温泉施設で入場制限はしていません。公共の施設であるという性質上、どなたにでも自由に楽しんでいただける施設でなければならぬためです。

マナーが良くない方には、係員が注意し、場合により退館していただくよう対応しています。これまでは、注意することはまれであり、退館の事例はありません。

今後とも、係員のこれまで以上の監視の徹底を図るとともに、警察による巡回もこれまでどおり継続していただき、問題が起きないように対応に努めてまいります。

※内容は一部要約しています。

ご意見やご提案、ご要望などをお待ちしています。

あて先 日光市長 斎藤文夫
 ○手紙 〒321-1292
 日光市今市本町1番地
 ○FAX 0288-21-5545
 ○Eメール(市ホームページからも送信できます)
 hishokouhou@city.nikko.lg.jp

市内で最近、振り込め詐欺事件の被害が発生しました。被害の詳細は、次のとおりです。市内の男性(69才)に、甥と名乗る男から電話があり、「離婚して訴訟を起こされそうでお金が必要だ」などと言って199万円の振り込みを頼まれたため、送金してしまいました。昨年、市内で50万円と217万円の多額の振り込め詐欺事件が発生しています。

身内と名乗る者からの頼みでも、多額のお金をすぐに振り込んでほしいと頼まれたら、まず、振り込め詐欺と疑って行動しましょう。①身内からすぐにお金を振り込んでほしいと頼まれたら、電話をいっ

振り込め詐欺にご注意を！

市内で最近、振り込め詐欺事件の被害が発生しました。被害の詳細は、次のとおりです。市内の男性(69才)に、甥と名乗る男から電話があり、「離婚して訴訟を起こされそうでお金が必要だ」などと言って199万円の振り込みを頼まれたため、送金してしまいました。昨年、市内で50万円と217万円の多額の振り込め詐欺事件が発生しています。

たん切り、必ずこちらから本人に連絡を取り確認すること。②警察や市役所などに電話で相談すること(匿名も可能です)。

※高齢者には、「振り込め」と言われたら詐欺と思うように習慣づけるという家族の普段からの話し合いが被害防止に大きく役立ちます。

くわしくは 生活安全課 消費生活センター ☎(21)5151 (22)4743

振り込め詐欺に注意！



税金の滞納は許しません！

市では、「栃木県地方税徴収特別対策室」と協働で、市税などの滞納整理を行います。

税金は、皆さんが安心して暮らしていくための大切な資金です。市では、今年度から新たに収税課を設置し、市税などの納期内納付の推進と滞納市税などに対する徴収強化のため、さまざまな収税対策を実施しています。

その一環として、市税などをきちんと納付している皆さんとの公平を保ち、滞納の解消を図るため、栃木県に新たに設置された「地方税徴収特別対策室」と協働で、滞納整理を行うことになりました。

「地方税徴収特別対策室」は、市税などを滞納し、納税相談にも応じない場合には、差し押さえなどの滞納処分を強力に推進します。

また、滞納解消に向けて、次の取り組みを行っていきます。

- ◆財産調査 滞納者の財産状況について、関係機関に対して調査を行います。
- ◆滞納処分 財産調査の結果、処分可能な財産

があった滞納者に対し、差し押さえを実施します。差し押さえ後も納付にならない場合、差し押さえた財産を公売などにより売り払い、未納分に充てます。

※調査・処分は、地方税法・国税徴収法などの法律に基づき、滞納者の事前の了承を得ずに行うことができます。

くわしくは 収税課 収税係 ☎(21)5103



思いやりの心を持って③

男女共同参画で輝く未来へ

くわしくは 男女共同参画課 ☎(21)5148

介護と男女共同参画

昨年実施した市民アンケート調査の中で、「だれが介護を行うのが良いか」について質問しました。その結果、「介護サービスを利用しながら家族全員で介護する」という意見が数多くありました。しかし、「実際に介護をしている」と回答したのは女性が大多数でした。

これは、「介護」については、誰もが大変なことであると感じていながらも、主に女性にその役割が担わされているというこ

とではないでしょうか。

介護を専門家に手伝ってもらうことの後ろめたさや、罪悪感を持つ人もいるかもしれません。老々介護などという言葉のとおり、介護する人もされる人も共に高齢になり、その結果、共倒れになりかねない状況も懸念されています。

そこで、周りの人に助けを求めたいという気持ちを、地域のみなが理解し、男女が共に助け合いの精神を持って、支援しあっていきたいものですね。

